

2024 年度 運送業ランキング 増収企業は約7割

収入高トップはランテック

九州・沖縄地区の道路貨物運送業者の実態調査(2024 年度)



本件照会先

秋山進(調査担当)
帝国データバンク
福岡支店情報部
092-738-7779(直通)
tdb.fukuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/12/26

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2024 年度の九州・沖縄地区(以下、九州)の道路貨物運送業・収入高ランキングは、(株)ランテック(福岡市博多区)が首位。2 位は久留米運送(株)、3 位は池田興業(株)で、いずれも運賃改定や物流効率化が奏功した。収入高 10 億円以上の 376 社では、増収企業が 69.4%と約 7割を占め、地域別では長崎県の増収比率が最も高かった。また、損益面で比較可能な 316 社のうち「増益」は 186 社(構成比 58.2%)と約 6割にとどまった。黒字は 277 社(同 87.7%)となり、売り上げ規模が大きい企業ほど収益面で安定する傾向がみられた。

帝国データバンク福岡支店では、企業概要データベース「COSMOS2」(約 150 万社収録)から、九州・沖縄に本社を置き、道路貨物運送業を展開する企業のうち、2024 年度(2024 年 4 月期～2025 年 3 月期)の業績が判明し、かつ、収入高が 10 億円以上となった 376 社を抽出。売り上げや利益の動向について分析した。

収入高ランキング(2024 年度)

収入高ランキング (2024 年度)

順位	商号	所在地	決算期	収入高 (百万円)	前年度比 収入高伸び率
1	(株)ランテック	福岡市博多区	3	68,596	6.9%
2	久留米運送(株)	福岡県久留米市	3	47,073	3.7%
3	池田興業(株)	北九州市門司区	3	34,713	2.5%
4	九州西濃運輸(株)	福岡市博多区	3	31,017	▲1.4%
5	福岡運輸(株)	福岡市博多区	3	27,845	13.0%
6	臼杵運送(株)	大分県臼杵市	9	21,221	0.9%
7	沖縄ヤマト運輸(株)	沖縄県糸満市	3	20,568	0.9%
8	(株)MLS	福岡市東区	6	18,500	8.8%
9	幸運トラック(株)	長崎県大村市	3	17,745	0.7%
10	三友通商(株)	福岡県筑紫野市	3	17,624	2.6%

抽出した九州の道路貨物運送業の経営業者376社(収入高10億円以上)の2024年度の収入高ランキングを見ると、**(株)ランテック**(福岡市博多区)がトップとなった。当期は定温輸送における設備面の優位性や整備された拠点網を生かした物流の総合提案によって、引き続き大手食品メーカーから安定した受注を確保できたほか、ドライバーの人件費上昇に対して、適正料金施策を実施してきたことで受注単価は前期に比べ増加し、部門収入は前期比増となった。また、倉庫業など運送以外の部門は、運送部門の受注拡大に伴って、付帯業務(商品管理やピッキング作業)の受注も増えた。更に、保管料なども運賃の増加に伴い価格が上昇し、同部門の収入高も前期実績を上回った。以上により年収入高は前期比6.9%増となった。

2位は**久留米運送(株)**(福岡県久留米市)。運送事業では2024年問題の対策として長距離輸送の物流拠点見直しを受け、受注量は増加した。また、運賃改定についても2882社の顧客に値上げを実施できたことから、同事業は前期を上回った。倉庫事業は、料金の改定に加え、総合物流事業として冷凍冷蔵、3PTとの組み合わせで、顧客の望む保管方法を提案し、対応量が増加したことから増収となった。両部門で増収となったことから、年収入高は前年度比3.7%増となった。

3位は**池田興業(株)**(北九州市門司区)となった。物流センター(倉庫)は、得意先の物流ニーズを柔軟に対応できるよう集荷(入庫)から出荷(納品)まで一貫して管理する物流管理システムを導入している。得意先のビジネスニーズにリアルタイムで応対できる「ロジスティックターミナル」として国内外を問わず機能することが可能。2024年問題と環境対策等を重点課題として労働時間の上限規制に対応しつつ、運送契約の見直しと営業活動により生産性の向上を図り、年収入高は前年度比2.5%増となった。

業績動向

県別の収入高推移

	増収	構成比	減収	構成比	横ばい	構成比	合計	構成比
福岡県	117	67.2%	40	23.0%	17	9.8%	174	46.3%
佐賀県	20	71.4%	6	21.4%	2	7.1%	28	7.4%
長崎県	19	86.4%	3	13.6%	0	0.0%	22	5.9%
熊本県	25	61.0%	13	31.7%	3	7.3%	41	10.9%
大分県	18	81.8%	4	18.2%	0	0.0%	22	5.9%
宮崎県	21	80.8%	5	19.2%	0	0.0%	26	6.9%
鹿児島県	27	69.2%	11	28.2%	1	2.6%	39	10.4%
沖縄県	14	63.6%	7	31.8%	1	4.5%	22	5.9%
合計	261	69.4%	89	23.7%	26	6.9%	376	100.0%

九州の増収企業は69.4%で約7割。県別の売上高推移では「増収」比率が最も高かったのは「長崎県」で86.4%。「大分県」の81.8%、「宮崎県」の80.8%が続いた。一方、「減収」比率が高かったのは「沖縄県」の31.8%がトップ。「熊本県」が31.7%で続いた。

年商区別の利益状況

年商区分	増益	構成比	減益	構成比	合計	黒字	構成比	赤字	構成比	合計
500億円以上1000億円未満	1	100.0%	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0.0%	1
100億円以上500億円未満	12	63.2%	7	36.8%	19	18	94.7%	1	5.3%	19
50億円以上100億円未満	16	47.1%	18	52.9%	34	31	91.2%	3	8.8%	34
10億円以上50億円未満	155	59.2%	107	40.8%	262	227	86.6%	35	13.4%	262
合計	184	58.2%	132	41.8%	316	277	87.7%	39	12.3%	316

直近2期(2023～2024年度)の損益比較が可能な316社の年商区別での増減益状況をみると、「増益」企業は184社で構成比は58.2%で約6割にとどまった。「減益」企業は132社で同41.8%の比率となった。「増益」比率が高いのは「500億円以上1000億円未満」が100.0%(1社)、「100億円以上500億円未満」の63.2%(12社)。対して「減益」比率が高いのは「50億円以上100億円未満」の52.9%(18社)、「10億円以上50億円未満」の40.8%(107社)となった。

利益状況をみると、「黒字」企業は277社で構成比は87.7%、「赤字」企業は39社で同12.3%の比率となった。「赤字」比率が最も高いのは「10億円以上50億円未満」で13.4%(35社)。「50億円以上100億円未満」が8.8%(3社)で続いた。年商区分が低い企業ほど利益面で苦戦している状況がうかがえる。

まとめ

2024年度の九州の運送業界は、いわゆる「2024年問題」への対応が本格化するなかで、運賃改定や業務効率化を進めた企業と、コスト上昇を十分に転嫁できなかった企業との間で業績の差が一段と鮮明となった。今回、収入高10億円以上の運送業者376社を対象に2024年度の経営動向を分析したところ、全体としては増収・黒字企業が過半を占めたものの、規模や地域によるばらつきも目立つ結果となった。

収入高ランキングでは、(株)ランテック(福岡市博多区)がトップとなった。同社は定温輸送における設備面の優位性や全国に整備された拠点網を生かし、食品メーカー向けを中心に安定した受注を確保。ドライバー人件費の上昇に対しても適正料金施策を進めたことで受注単価が上昇し、運送部門は前期比増収となった。加えて、倉庫業など運送以外の部門でも、運送受注拡大に伴う商品管理やピッキング業務の増加、保管料の見直しが奏功し、年収入高は前期比6.9%増となった。2位は久留米運送(株)(福岡県久留米市)で、長距離輸送の見直しによる受注増や、2800社超の顧客に対する運賃改定が寄与し、年収入高は同3.7%増。3位の池田興業(株)(北九州市門司区)も、物流管理システムの高度化や契約条件の見直しにより生産性を高め、同2.5%の増収を確保した。

地域別にみると、「増収」企業の割合が最も高かったのは長崎県(86.4%)で、大分県(81.8%)、宮崎県(80.8%)が続いた。一方、「減収」比率が高かったのは沖縄県(31.8%)と熊本県(31.7%)で、地域特性や取引構造の違いが業績に影響したとみられる。

利益面では、直近2期(2023～2024年度)の損益比較が可能な316社のうち、「増益」企業は184社(構成比58.2%)となり、約6割にとどまった。年商規模が大きいほど増益比率が高い傾向がみられるものの、100億円以上の企業では価格転嫁や効率化が進んだ一方、100億円未満の企業では減益も目立った。また、利益状況では、「黒字」企業が277社(同87.7%)に達したものの、10億円以上50億円未満の企業層では赤字比率が相対的に高く、規模による経営体力の差が浮き彫りとなった。

2024年度の九州の運送業界は、運賃是正や付加価値提案に成功した企業が堅調に推移した一方で、コスト上昇を吸収できない中小企業では収益面の課題が残った。今後も人手不足や環境対応への投資負担は続く見通しであり、適正運賃の定着や業務効率化の進展が、中長期的な競争力を左右する重要な要素となりそうだ。

収入高ランキング(2024 年度)上位 50 社

順位	商号	所在地	決算期	収入高 (百万円)	前年度比 収入高伸び率
1	株式会社ランテック	福岡市博多区	3	68,596	6.9%
2	久留米運送株式会社	福岡県久留米市	3	47,073	3.7%
3	池田興業株式会社	北九州市門司区	3	34,713	2.5%
4	九州西濃運輸株式会社	福岡市博多区	3	31,017	▲1.4%
5	福岡運輸株式会社	福岡市博多区	3	27,845	13.0%
6	臼杵運送株式会社	大分県臼杵市	9	21,221	0.9%
7	沖縄ヤマト運輸株式会社	沖縄県糸満市	3	20,568	0.9%
8	株式会社MLS	福岡市東区	6	18,500	8.8%
9	幸運トラック株式会社	長崎県大村市	3	17,745	0.7%
10	三友通商株式会社	福岡県筑紫野市	3	17,624	2.6%
11	株式会社JA物流かごしま	鹿児島市	4	16,267	▲2.7%
12	株式会社NBSロジソル	大分県日田市	3	15,877	4.5%
13	九州福山通運株式会社	福岡市博多区	3	15,800	▲1.3%
14	西九大運輸倉庫株式会社	福岡市東区	3	13,197	3.1%
15	吉田海運株式会社	長崎県佐世保市	8	12,523	5.1%
16	株式会社博運社	福岡県糟屋郡	12	11,834	4.1%
17	福岡運輸システムネット株式会社	福岡市博多区	3	11,436	1.3%
18	株式会社あんしん	沖縄県浦添市	3	11,188	1.4%
19	福岡倉庫株式会社	福岡市東区	12	10,243	4.2%
20	九州航空株式会社	北九州市小倉北区	3	10,067	3.8%
21	株式会社トワード	佐賀県神埼市	3	9,849	5.2%
22	九州名鉄運輸株式会社	福岡県糟屋郡	3	9,030	11.1%
23	琉球通運株式会社	那覇市	3	8,832	0.9%
24	丸和運送株式会社	宮崎県児湯郡	3	8,409	6.5%
25	株式会社沖縄急送	沖縄県浦添市	3	8,356	13.9%

26	高千穂倉庫運輸株式会社	福岡市東区	3	8,227	2.3%
27	西鉄運輸株式会社	福岡市博多区	3	7,888	3.6%
28	南九州福山通運株式会社	鹿児島市	3	7,300	▲0.2%
29	九州産交運輸株式会社	熊本市南区	3	6,908	▲2.4%
30	熊本交通運輸株式会社	熊本県上益城郡	3	6,648	▲3.4%
31	株式会社福岡ソノリク	佐賀県鳥栖市	5	6,633	6.4%
32	株式会社アイエヌライン	福岡県築上郡	10	6,600	10.2%
33	出水運輸センター株式会社	鹿児島県出水市	7	6,387	▲1.4%
34	株式会社中山運輸	佐賀県三養基郡	3	6,354	▲10.0%
35	中越物産株式会社	鹿児島県薩摩川内市	3	6,230	9.3%
36	大翔トランスポート株式会社	福岡市東区	12	6,180	0.1%
37	マルイ運輸株式会社	鹿児島県出水市	2	6,174	6.1%
38	太田運輸株式会社	福岡県朝倉郡	6	6,079	4.6%
39	九州センコーロジ株式会社	佐賀県鳥栖市	3	5,900	5.4%
40	株式会社九州丸和ロジスティクス	福岡市東区	3	5,887	4.0%
41	園田陸運株式会社	鹿児島市	8	5,834	▲22.9%
42	株式会社大福物流	熊本県上益城郡	4	5,692	8.5%
43	株式会社コーソク	宮崎県日向市	6	5,632	11.5%
44	株式会社肥後産業	鹿児島市	7	5,560	▲8.3%
45	株式会社三友ロジスティクス	福岡県筑紫野市	3	5,544	▲10.0%
46	株式会社NSロジ西日本	北九州市八幡東区	3	5,532	13.2%
47	松藤商事株式会社	長崎市	9	5,500	1.9%
48	博多運輸株式会社	福岡市博多区	3	5,377	7.4%
49	株式会社丸野	長崎市	8	5,366	3.2%
50	高光産業株式会社	福岡市博多区	4	5,300	3.9%

※収入高には推定値を含む